

ハリケーン・サンディに関する国交省・防災研究者調査団による緊急メッセージ 2013年10月 国土交通大臣への報告から

米国ハリケーン・サンディに関する
国土交通省・防災関連学会合同調査団による
緊急メッセージ

～想定外に対応せよ～

- 地球温暖化に伴う影響が懸念される昨今、巨大台風による大規模水害は明日起こるかもしれない。甚大な人的被災や都市機能が停止するような大規模な浸水の発生を前提として、対応力を強化せよ。
- 科学的知見に基づき、広大な地下空間やゼロメートル地帯を有する3大都市圏の大規模水害のリスク評価を速やかに行い、国民に周知せよ。
- 地方公共団体、民間企業と連携し、台風情報を活用した災害対応の行動計画を策定・共有せよ。
- 災害対応後にその内容を検証・改善する仕組みを構築せよ。

1. 都市圏水害の課題 → 組織間連携が十分でない。

- 都市圏は、経済中枢が集積し地下空間も無数、また「(海拔)ゼロメートル地帯」には、多数の国民が居住。
- 緊急時は、百万人規模の広域避難が生じ、数日前からの防災対応が必要。
- 広域避難の実現には、様々な機関の連携が必要だが、組織間の横断的な防災計画は進んでいない。

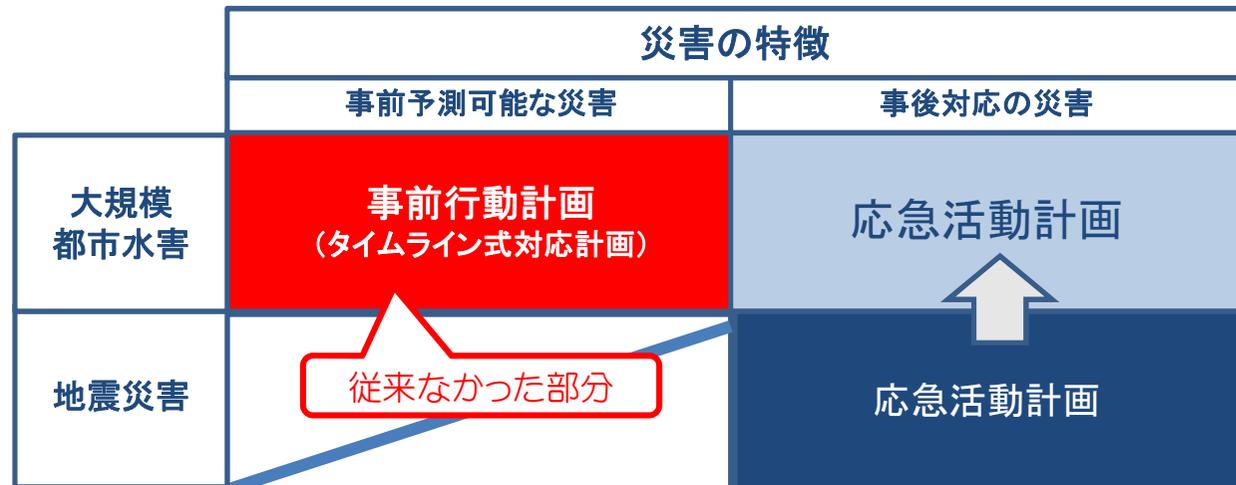
2. 水防災活動の現状

- 我が国の防災活動は、気象情報や河川情報をトリガーとして各機関が独立して行動。
- わが国の災害対応は現象が先行し、実被害発生の実態に基づいて対応する事例が多い。

3. 先を見越した水防災へ → 事前行動計画(日本型タイムライン)を試行すべき。

- サンディでは、「被害の発生を前提とした防災」を前提にタイムライン式対応計画を使って減災を実現。
- 台風は、発生してから被害が生じるまで時間があり、「先を見越した対応」により減災は可能。
- また防災機関の対応のばらつきをなくすために組織間連携によるタイムライン式行動計画は有用な手法である。

- ・台風による都市圏水害は、事前予測が可能で『事前行動計画』を策定すべき。
- ・米国ではこれを「タイムライン式対応計画」と呼び、サンディでは有効に機能した



当時の大臣説明資料(筆者ら作成) 先を見越した水害対応を～事前行動計画の試行～

タイムラインで変わる流域防災

防災は、協働と互助



1. タイムラインで、**顔の見える関係**を作る。
2. タイムラインで、**予め役割を決めて、動く。**
3. タイムラインは、**首長の意思決定を支援する。**
4. タイムラインで、**先を見越した早めの行動が安心・安全に。**
5. タイムラインを防災チェックリストに、**漏れ・抜け・落ちの防止に**
6. タイムラインに**教訓を活かす**